

待降節第三主日礼拝

《主日朝礼拝式次第》

【入祭の部】

前奏(黙祷)
「久しく待ちにイエスよ、来たりて」
(讃美歌21の235番)
C.S.ラング作曲

あいさつ
讃美 讃美歌21/241番
開会の祈り
交読詩篇 詩編99篇1~5節

【み言葉の礼拝】

聖書
✦イザヤ書9章1~6節
✦マタイによる福音書1章18~24節
(旧約P.1073、新約P.1)

応答唱 讃美歌21/85番
教話 井上隆晶牧師
『その名はインマヌエル』

【聖餐礼拝】

奉献 讃美歌21/81番
教会の祈り(連祷)
平和の挨拶
讃栄 讃美歌21/83番
主のいのり
陪餐

【応答と派遣と祝福】

讃美 讃美歌21/240番
感謝の献物
栄光の讃美 讃美歌21/24番
派遣の言葉 井上隆晶牧師
祝福の祈り
後奏(黙祷)
「闇は深まり」(讃美歌21の243番)
J.ムントシック作曲

【本日の礼拝奉仕者】

司式補佐 勝見 仁
奏楽 鹿野幸枝
献金当番 未定
受付当番 相澤美子

【本日の予定】

◇教会学校(朝9時30分)
・お話し:小坪英恵
◇讃美歌練習(礼拝後)
◇合同祈禱会(礼拝後)
◇クリスマス子ども会(午後2時)

【今週の教会での集会のご案内】

◇朝の祈り
・12月17日(火) 午前8時30分
・12月20日(金) 午前9時
◇英会話グループ:お休みです。

【次週主日12月22日のご案内】

◇教会学校礼拝(午前9時30分)
・お話し:小坪英恵
◇主日朝礼拝(午前10時30分)
・聖書
✦イザヤ11:1~5
✦ルカ福音書2:8~20
(旧約P.1078、新約P.103)
・教話 井上隆晶牧師
『飼葉桶のしるし』
・讃美歌21 257、38、247
・交読詩篇 詩編87:1~7
・司式補佐 澤田昌人
・奏楽 飯田雅子
・献金当番 黒澤なおみ
・受付当番 井上万里子
◇讃美歌練習(礼拝後)
◇合同祈禱会(礼拝後)
◇クリスマス愛餐会(礼拝後)

聖句

「見よ、おとめが身ごもつて男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」

(マタイ1章23節)

【諸報告・個人消息】

①《今週の井上牧師の予定》:17日(火) 午前10時「心の病の勉強会」、18日(水) 午前11時「大阪YWCA福祉会人事委員会、理事会」、19日(木) 午後5時30分「一致祈禱会準備委員会」(カトリック玉造大聖堂)

②《12月の行事のお知らせ》

■12月15日(日) 午後2時「子どもクリスマス会」御幸コミュニティホール

■12月17日(火) 午前10時「心の病の勉強会」

■12月22日(日) 「クリスマス礼拝」、「愛餐会」食事は各自で持ち寄ります。

■12月24日(火) 午後6時30分「クリスマスイヴ礼拝」

③【祈禱課題】

●宗教法人を取り、広い礼拝堂を建築するため。

●都島教会が外に向かって宣教する教会になるため。●ガザとウクライナ難民の救いのため

④【先週の集会統計】

日	集会	男	女	大人	計	礼拝献金
8	CS礼拝	-	1	5	6	¥2,750
	集会	男	女	子ども	計	礼拝献金
8	朝の礼拝	8	13	4	25	¥18,323
10	朝の祈り	2	3	-	5	
13	朝の祈り	4	3	-	7	

⑤【12/8の献金報告】

[月定] 黒澤なおみ、鹿野幸枝(計30,000円)

[クリスマス感謝] 相澤美子、都木恵子(計13,000円)

[冬期特別感謝] 寺田律子(10,000円)

[感謝] 中元佐和子(計1,000円)



【先週の説教要旨の続き】

「バラで飾られている。」「聖なる処女は大いなる謙遜から、徒歩で遠い道のりを年老いたエリサベトのところまでゆく。」「マリアがナザレにいたとき、彼女は独りの貧しい若い女であり。誰からも注目されず、…彼女がいただいた大いなる奇跡を誰も感じようとしな。彼女はまたそれについて沈黙しており、自らも町中でとるに足らぬ者と考えている。…彼女がいかにか途中の宿屋で軽蔑されたかを考えてみよ。」救いに関わる仕事をさせられる人、神の仕事を負わされた人はすべてそうです。神が舞台の主人公であって、人間はすべて脇役なのです。しかしそのように神に仕えた人たちの人生はどれも神の栄光で溢れています。心の病の勉強会に、パーソナリティー障害とDVの夫をもつご婦人が来ています。地獄のような生活でしたが夫さんはやがて亡くなります。彼女は「病気の勉強をして、今まで夫がすべて悪いと思っていたけど、自分も悪かったことが分かった。今では夫を赦している。しかし子どもたちは夫のDVを見て育ち、夫を赦していない。これからの私の人生は、人を赦すことを子どもたちに教えてゆくという宿題が残っている。」と言われました。大変な苦しみを体験した人は豊かさを持つということです。苦しみがそれだけで終わらず、その顔に優しさや逞しさが表れているのです。まるで「修道士」のような、いい顔をしているのです。

神に負わされた十字架を黙って負い、どんなに理不尽でも正しく生きよう、人を愛そう、人を赦そうとして生きる姿を見る時に、まるでキリストを見ているような感じがするのです。苦しみの神秘です。マリアは胎内にキリストを宿しましたが、出産してからもその体内にはキリストはおられないのではなく、信仰と従順によって内なるキリストがどんどん大きくなっていったのではないかと思います。私たちも主の御心を求めて、それに従い続ける生き方をしたいと思います。